

田^ノとに暖かさを増して桜の花が咲き誇る季節はもうすぐです。今日は大阪市立淀中学校第七七回田の卒業式。新校舎完成を祝う竣工式後に行われる初めての卒業式です。淀中学校について、まさに「ハレの田」です。

ご来賓の皆様。胸を張り未来に向けて立ちつゝ卒業生たちの門出。ご列席の皆様に共に祝つていただけること、誠にありがとうございました。篤く感謝とお礼を申しあげます。今日、一六六名を加え、淀中学校の卒業生は一五六四の名となりました。歴史と伝統を感じます。皆様の大きな支えがあつてのことです。地域の皆さんに支えていただける淀中学校であることが誇りです。

卒業生の皆さん。皆さんは、私にとって、淀中学校での初めての卒業生でもあります。先ほどの卒業証書授与。おめでとうといふ気持ちを込めて、みなさん一人一人の顔をみて卒業証書を手渡しました。知らず知らず、この一年間のとがれまな思ひがこみあげてしまふことになりました。

皆さんが淀中学校に入学してきた頃の姿。それは私にとって想像することができませんが、今よりも心身ともに頼りなく幼い姿であったことだらうと思います。そこから三年間。たく

さんの経験を皆さんは積み重ねてきました。

人を励ますこともあつたでしょう。人に励まされることもあつたはずです。充実感や達成感もあれば、挫折や苦しみ、悩みもあつたことだと思います。喜びとともに悲しみもあつたのではないかでしょうか。そのすべてが、きっと、みなさんの財産です。それらを糧に、みなさんはこの三年間で大きく成長しました。頼りなく幼い姿を脱ぎ捨て、立派な青年として巣立ついく皆さんが眩しいです。

これまでの成長に大きな拍手を送るとともに、みなさんのこれから成長にホールを送ります。たくさんの希望がみなさんを待ち受け、たくさんの幸福をみなさんが手にしていきますよ。

つい。

さて、卒業にあたり皆さんに、最後に伝えたいことは何だろうとあらためて考えてみました。昔の偉人の格言なのか、それとも有名な詩の一節なのか。考えた末に、これまで節目節目でその時々の児童・生徒たちに伝えてきた「願い」を重ねて伝えることにしました。新しくはあつませんが、心から「願い」なので、最後にもう一度おこづかださ。

一つめの願い。それは、皆さんに「頑張る人、努力する人」で

いてほしいという願いです。

頑張る、努力するといつのは、成長しつづかるために、とても大切なことだと思います。頑張る、努力するためには目標や考える力、辛いことから逃げない心が必要です。いつも頑張り、努力し続けることは簡単なことではありません。

だけど、成長しつづかるために大切なことに間違いはありますので、時には休息をとしながらも、皆さんには「頑張る人、努力する人」でいつづけてほしいです。

二つめの願い。それは皆さんに「優しい人、思いやれる人」でいてほしいという願いです。

成長しつづけるためには、いつも安心してすいせる場が必要だと思います。皆さんのがたくさんの人を優しく思いやることができる、たくさんの人が皆さんを優しく思いやつてくれるはずです。そんな優しさと思いやりに満ちた場は、きっと、いつも安心してすいせる場です。

優しさ、思いやりとは、人を理解して大切にすいことです。

それができる人は「本物の強さ」を手に入れられる人でもあると思います。

三つめの願い。これは初めて皆さんにお話することです。元は、アメリカ合衆国の伝説的大統領ジョン・F・ケネディが

大統領就任演説で語った言葉を自分なりに解釈したものです。

ケネディは「この國民に語りかけました。「國があなたたち一人ひとりに對して何をして貰われむか」と問ひのではなく、「あなたたち一人ひとりが國に對して何ができるか」と問おう。社会で生きる人としての基本的な心の在り方を問い合わせる言葉です。

國とう言葉は、例えば、会社であつたり学校であつたりチームであつたり家族であつたり、「やせやせなあなたが所属する集団」と言ひ換えて理解することができる。所属する集団から「やせやせれるものに贊否を述べるばかりではなく、所属する集団の現状をよりよくするために、自分には何ができるのかを考えよう。そのような心の在り方を示していくと思こます。皆さんには、ぜひ、そのような心の在り方でこれから的人生を切り拓いていってほしきです。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は、お子様の「卒業おめでとうござります。お子様の胸を張り未来に向けて乗りつけてゆく姿を「」見になり、大きな喜びと感動で胸をいっぱいにされているのではないでしょうか。心よりお祝い申しあげます。あわせて、これまで三年間の淀中学校に対する温かい「」理解と「」協力に、あらためて篤くお礼を申しあげます。

中学校を卒業したお子様は、思春期真っ只中から、大人に向けて確実に一歩近づいたことだと思います。保護者の皆様に支えられ励まされるばかりであったのが、保護者の皆様を支え励ます場面が増えているに違いありません。それでもきっと、まだまだ保護者の皆様の温かな愛情と眼差しを必要としていることだと思います。あとしじらくなは、変わらぬ愛情とつかず離れずほどよい距離感で、やうやくお子様の成長を見守ってください。

それでは、皆様の幸福を祈念し、卒業式の式辞とさせていただきます。

令和七年三月十四日

大阪市立淀中学校 校長 吉田健太